19日早朝に及ぶ国会前抗議

戦争法案の採決強行を求めるSEALDs＊の若者たち＝19日午前3時30分ごろ、国会正門前

この怒りは忘れない！

「民主主義はこれだ」

安倍政権倒す・賛成議員落とす

19日未明まで続いた戦争法案をめぐる攻防。国会正門前には、あらゆる世代の参加者が集い続けた。未明まで抗議を続けたSEALDs（シールズ）は自由と民主主義のための学生緊急行動」をはじめ、若者たちは安倍政治に「NO」の意思表示を続けた。採決強行の後も抗議は明るく、「この怒りは忘れない」との強い決意であふれていました。（沢川祐司、三田文子、土田千恵、前田朗）

午前2時37分、国会前に採決強行の知らせが入った。直後の第一声は「採決撤回」の大合唱でした。都立新宿高校から来た塔島翠大（とうじま・むぎた）さん（3）は、「コールの声しか聞こえませんでした。可決されたことは後で知ったけど、安保法案は終わっていない」といいます。

数カ所に分かれ、声をあげ続ける若者たち。首都大学東京から参加したという大学生、シールズ関西のメンバーは、大阪での街宣活動を終えた後、最後の新幹線に飛び乗り駆けつけました。

腕を突き上げ、コールが次々と変わっていきます。「国会に行こう」「デモに行こう」「安倍はやめろ」

反対討論する

国会議員応援スピーカーの後ろでは、衆議院議場をスピーカーにつなぎ、国会中継の声が流れ続けていました。時を刻み、聞き耳を立てる若者たち。

首脳が終わり、記名投票が始まると、コールが「強行するな」「憲法守れ」に変化。投票が終盤になると、興奮がやみました。静寂を「立憲主義を踏みつけるな」「安倍やめろ」の声が埋めます。

「岩山がんばれ」「小野はがんばれ」「小池はがんばれ」と、参院本会議で反対討論する、国会議員一人ひとりを応援します。

東京都町田市から来た、会社員の鈴木真奈さん（31）は「今国会に反対した皆さんを、国民の多くが支持している。成立を受け、参加者が知恵を絞りましょう」と訴えました。

反対議員を落とそう

シールズの奥田愛基（あき）さんが訴えます。「こんなに多くの声を政治に反映してくれる議員がいるのに、なぜ私たちの声を聞いてくれないのか。私たちは、国民の声を聞かない議員を落とすことができる。来年の参院選で、安倍政権を倒そう」

山梨県から駆けつけたという大学生、山中康博（こうすけ）さん（22）＝国民一人ひとりが、自分の意思で、自分で考えて、自分の力で立ち上がっている。いま日本の社会が変わりつつある」と強調。

今後も野党共闘を強めていくと述べ「日本国憲法がうたう、平和主義、立憲主義、民主主義、これが問われる新しい政治をつくっていこう」との訴えに大きな歓声が起こりました。

川崎健介市から来た佐藤勝さん（29）「やり方があまりに傲慢（ごうまん）。絶対に許せない」と話しました。

朝日が差し込み、鳴り続けた抗議の声も静まり始めた午前6時19分。奥田さんは最後に「今日、集まりに参加した皆さんは、安保法案の採決強行を阻止することはできませんでした。しかし、この声を絶対に諦めない。私たちは、この声を絶対に忘れない。私たちは、この怒りを絶対に忘れない。私たちは、この声を絶対に忘れない。私たちは、この声を絶対に忘れない。私たちは、この声を